

■ 議題

今回の番組審議委員会は、2018年12月21日（金）宮ノ下浩一ナビゲーター担当の『ヒッツ・ヴォイス・オブ・ザ・コンパス』内で午後3時12分より放送した「女優・タレント・歌手としてご活躍の大竹しのぶさんへの電話インタビュー」と、2019年1月24日（木）中村よし子ナビゲーター担当の『ヒッツ・モーニング・エアー』内で午前9時30分より放送した「荘川そばの実の浸水作業および2月17日（日）開催の第4回そばの里荘川 道の駅・雪まつり大会についてのインタビュー」を聴いて審議に入った。

■ 審議内容

会社側： 審議に入る前に、前回の番組審議委員会での意見に対しての回答、報告、今後の放送予定、聴取した番組の補足などを説明した。

大萱委員長： 只今、聴取した内容についてでもよいし、普段聴いている放送についてでもよいので、順次、意見をお願いしたい。

蒲生委員： 「大竹しのぶ電話インタビュー」は、大竹さんのような有名な役者が、地方のラジオ局に出演することなど、なかなか無いと思うので、非常に興味深く聴けた。ノイズや電話の声質も特に気にならなかった。インタビュー中に、飛驒のイメージとして、大竹さんが主演した映画「あゝ野麦峠」の話が出て、非常に親近感が持てた。
「浸水作業のインタビュー」は BGM が緩やかで静かな曲が流れていて、非常に言葉が聴きやすかった。レポートのやり取りもスムーズで、話の内容がよく分かった。知りたい情報もほとんど聞いていて、特に分からないことが無く良かった。蕎麦の話がメインだったが「雪まつり」についてもどのようなことをするのか、もう少し聴きたかった。

大萱委員長： 大女優の大竹しのぶさんに、よくご出演いただけたなと思う。ぜひ、また色々チャレンジして欲しい。

寺井委員： （高木委員の代理）「大竹しのぶ電話インタビュー」は、大竹さんは皆さんご存知のとおりの大女優で、このようにネームバリューのある方が、ゲストとして出演するだけでも、聞き耳を立ててしまうように思う。ただ「エディット・ピアフ」を知らない人もいると思うので、簡単な解説があると良かった。皆が「エディット・ピアフ」を知っている前提でインタビューが進んでいたのが気になった。

寺井委員：「浸水作業のインタビュー」は、聴いていて実際に蕎麦を食べてみたくなった。蕎麦ができる工程や、店に並ぶ時期など、しっかり聞いて伝えていたので良かった。

大萱委員長：「エディット・ピアフ」は有名な方で、宮ノ下ナビゲーターもシャンソン歌手という紹介はしていたが、興味の無い人は知らないと思うので、インタビューの後でも良いので、説明があるともっと良かったと思う。

上田委員：（挾土委員の代理）「大竹しのぶ電話インタビュー」は、大竹さんのような有名な方が地域のコミュニティーFMに出演するだけで、皆が興味を持ってラジオを聴くと思う。私も運転中に興味を惹かれ聴いたし、昔の高山でのロケ話をしていて、その際、高山の人に世話になったという話が本人の口から出ると、聴いていてとても楽しく、少し誇らしい気分にもなった。良い内容のインタビューだった。

「浸水作業のインタビュー」は、当日、私も記者仲間と取材に行っており、中村ナビゲーターとも現場で会った。中村ナビゲーターも取材と一緒に聞いていて、実際のレポートでは、新聞記事に載るような必要な情報を全て確認した上で質問をしていたので、皆知りたい話は全て聞き出せていたと思う。流れも非常にスムーズで聴きやすかった。

大萱委員長：「大竹しのぶ電話インタビュー」は、事前に告知をしたのか？それとも、急に決まった話だったのか？

会社側：番宣はしたが、放送の頻度は分からない。以前、ミュージシャンや芸人に電話インタビューした時は、番宣用の声も別に収録し、実際のインタビューを流す時間枠で放送した。放送頻度は少なかったかもしれない。

大萱委員長：他のナビゲーターも、前もってお知らせしてあげても良いと思う。せっかくのインタビューなので、番宣の回数が少ないのはもったいない。今後、検討をお願いしたい。

田口委員：「大竹しのぶ電話インタビュー」は、今、意見にあったとおり、例えばツイッターでつぶやくなど、方法は何でも良いと思うが、より多くの方に聞いてもらえるよう事前にお知らせをした上で流したほうが良いと思う。電話なので仕方がないと思うが、少し声が聴こえ難かった。また、伝えたい内容がCDのことなのか、舞台のことなのか、演劇のことなのか、少し分かり難かった。最初に「CDを出します。それについてインタビューします」や「舞台はもう終わっていますが…」などの説明があると混同しないで話が聴けるのかなと思った。

田口委員： 今回のインタビューでは、最終的に大竹さんが「演劇を観に来て欲しい」と言っていたので、公演についての情報を最後にもう一度伝えるなどしないと、内容がまとまらないと感じた。ただ、ネームバリューがある方なので、話しの内容にはすごく興味が湧いた。

「浸水作業のインタビュー」は、本当に掛け合いのテンポが良く、相手の方の受け答えも短く具体的でとても分かりやすく、イメージもしやすかった。とても良い内容だった。

大萱委員長： 今回の意見、私も同じことを感じた。最後に大竹さんが「劇場に来ていただきたい」と言っていたが、何を伝えたかったのか、私も混同した。フォローがあれば良かったと思う。少し分かり難かったと思う。

田中委員： 普段どうしても飛驒の話題が中心になる中で「大竹しのぶ電話インタビュー」は、有名な方の話が生で聴ける非常に貴重なことだと思った。今後もどんどん続けて欲しい。また、先程の意見にもあったが、事前告知をして、さらにリスナーから電話インタビューでゲストに聞いてみたいことを募集するのも面白いのかなと思った。可能なら再放送もして欲しいし、飛驒のことをもっと質問してみるのも面白いのかなと思った。

「浸水作業のインタビュー」は、非常に丁寧な説明で、分かりやすいやり取りだったと思う。ただ「なぜ蕎麦の実を水にさらすのか」という浸水作業の意味を、簡単で良いので最初に説明があると、放送を聴いている人の話の理解度やイメージの仕方が変わってくるのかなと思った。色々な情報を放送で伝えていく上で、伝える順番も非常に重要になってくるのではないのかなと思った。

大萱委員長： 今回の電話インタビューの相手（大竹しのぶさん）は、たくさん話してくれる人なので、色々な情報を聞き出せると思う。今後、また出ることがあれば、色々聞き出して欲しい。

原委員： 宮ノ下ナビゲーターはベテランなので、特に言うことは無い。「大竹しのぶ電話インタビュー」も、恐らく事前にインタビュー内容を考えてあったようで、非常に段取りが良かった。皆が意見したようなことも感じたが、概ね聴きやすかった。特に、大竹しのぶさんは有名な方なので、私もすごく聞き耳を立てた。有名な方にまた出ていただきたい。インタビューの中で、何十年も前に高山に来たという話が出たが、最近来た時の高山の話題も引き出して欲しかった。「高山で何を〇〇した、誰と来た、どこへ行った」など、そういった話も聞けると、その方がより身近に感じるのではないかと思う。

原委員： 中村ナビゲーターもベテランなので「浸水作業のインタビュー」も非常に聴きやすく、すんなりと耳に入ってきた。放送を聴いて、頭の中でイメージが湧き、シチュエーションが想像できることが、やはり良いレポートだと思う。中村ナビゲーターは相手から上手く話を引き出していたと思う。ただ、私は蕎麦のことはよく分からないし、資料には文字で「浸水作業」と書いてあるが、放送で「しんすいさぎょう」と言われてもどのようなことをするのか分からなかった。もう少し突っ込んで、話を詳しく聞いても良かったと思う。それから、せっかく現地まで行っているので、実際に作業をしている方にインタビューしたら、より臨場感が出て良かったと思う。限られた時間の中でのレポートとしては、内容も分かりやすく非常に聴きやすかった。

大萱委員長： 高山は広いし、色々なイベント・行事があると思うので、これからも実際に現地に行って取材をして欲しい。今回の委員会では良い意見がほとんどだが、良い意見もナビゲーター、制作スタッフに伝えて欲しい。今年はインフルエンザが猛威を振るっているが、放送内で注意を呼び掛けたり、情報を取り上げたりしているのか？

会社側： 「高山市からお知らせ」（高山市からの情報コーナー）の中で紹介している。また、放送頻度は分からないが、個別のフリートークの中でも取り上げてはいると思う。

大萱委員長： かなりの広がりを見せているので、医師に出演してもらうのは忙しくて無理かもしれないが、医師会に相談する方法などもあるかと思う。インフルエンザだけでなく、その時の状況を見て、タイムリーな放送をして欲しい。

（2月）3日の「節分祭」は取材に行かないのか？

会社側： 当日、1時半から10分程度、スタジオでのゲスト出演をお願いしてある。また「街ゼミ」も始まるので、それについてのゲスト出演もお願いする予定だ。

大萱委員長： 商店街活動についても、ぜひ積極的に取り上げて欲しい。平成が4月に終わり、年号が変わる時の10連休には、ぜひ色々な企画を練っていただきたい。

会社側： 今日は、貴重な意見を頂き感謝している。制作会議で報告し、向上に繋がっていきたいと思う。

会社側：最近は、各芸能人との電話インタビューを行っていることもあるが、基本的には「地元のコミュニティーFM」として地元のイベント情報の紹介はもちろん、地元商店街とも連携し取り上げていくなど、地元の方を巻き込んでいきたい考えだ。忙しい中大変だと思うが、番組に協力いただきたいと思う。

■審議機関の答申又は、意見の概要を公表した場合における公表内容、方法年月日

平成31年1月29日 番組審議委員会の席上で説明

■その他の参考事項

次回開催日 平成31年3月下旬

開催場所 飛騨地域地場産業振興センター（予定）